

Logisnext

【訂正版】2023年3月期第2四半期 決算説明資料



Logisnext Solutions

ロジスネクストのソリューションがお客様にお応えいたします



2023年5月17日
三菱ロジスネクスト株式会社

- 2023年5月10日に開示の「（訂正・数値データ訂正）「2023 年 3 月期 第 2 四半期決算短信〔日本基準〕（連結）」の一部訂正について」の訂正内容に合わせて、本決算説明資料の訂正を実施いたしました。
- 訂正箇所は____を付して表示しております。なお、訂正箇所が多数に及ぶことから上記の訂正事項については、訂正後のみを記載しています。

市場環境

- 世界経済は、欧米諸国の物価上昇による金融引き締めや、中国のゼロコロナ政策、ロシアのウクライナ侵攻の影響で景気後退懸念が高まっており、一部地域においては景気後退が始まっている。また、資材費や輸送運賃の高騰、サプライチェーンの混乱も依然として続いている。
- 物流機器市場は、国内においてはコロナ禍前を超えるまでの水準に回復。海外においては、米州はコロナ禍前を上回る需要が継続、アジアも引き続き堅調に推移している一方、欧州は弱含みに推移、中国は減速が見られる。
- 当社においては、受注は概ね好調だが、様々な部品供給の遅れによるリードタイムの長期化や、原材料費、輸送費等のコスト高が前年度から継続している。そのような状況下、国内では部品欠品で出荷が進まない一方、欧米では出荷促進や販売価格改定の効果が出始めている。

連結業績概要

- 売上高は、米州、欧州を中心とした販売台数増に加え、為替の円安影響が寄与し、前年比+29.4%の増収。
- のれん等償却前営業利益は、欧米での販売増や円安影響の寄与があったものの、資材費及び輸送費の高騰影響に加え、国内の部品欠品による出荷減が響き、前年比-1.4%の減益。

2. 決算ハイライト

(単位：億円)

損益計算書	FY2021/2Q	FY2022/2Q	前年同期比増減	
売上高	2,160.9	2,795.9	+635.0	+29.4%
営業利益 (のれん等償却前) (営業利益率)	63.0 (2.9%)	62.1 (2.2%)	-0.8	-1.4%
のれん等償却	47.4	51.3	—	—
営業利益 (営業利益率)	15.6 (0.7%)	10.8 (0.4%)	-4.8	-30.8%
経常利益 (経常利益率)	14.3 (0.7%)	10.2 (0.4%)	-4.0	-28.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益 (当期純利益率)	0.2 (0.0%)	-13.5 (-0.5%)	-13.7	—

FY2021/2Q実績レート：USD = 109.80円 EUR = 130.88円 CNY = 16.99円

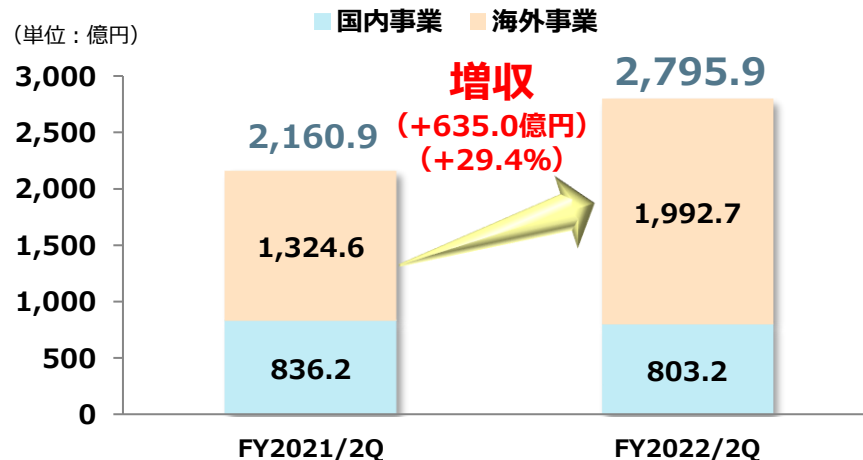
FY2021/4Q実績レート：USD = 112.38円 EUR = 130.56円 CNY = 17.51円

FY2022/2Q実績レート：USD = 133.97円 EUR = 138.73円 CNY = 19.88円

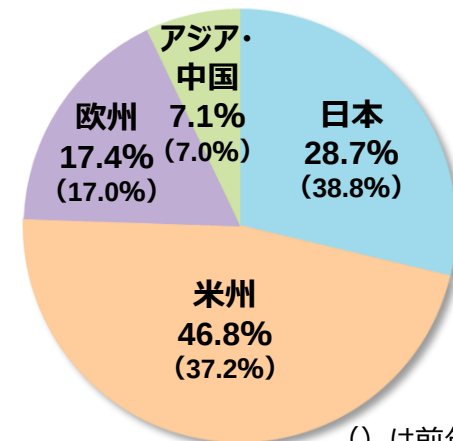
貸借対照表	FY2021/4Q	FY2022/2Q	前期末比増減	
総資産	4,056.0	4,657.2	+601.2	+14.8%
総負債	3,418.6	3,918.1	+499.4	+14.6%
純資産	637.3	739.1	+101.8	+16.0%

3. セグメント別業績

国内事業は部品欠品による出荷減が響き減収となったが、海外事業が欧米での販売台数増及び為替影響により増収。

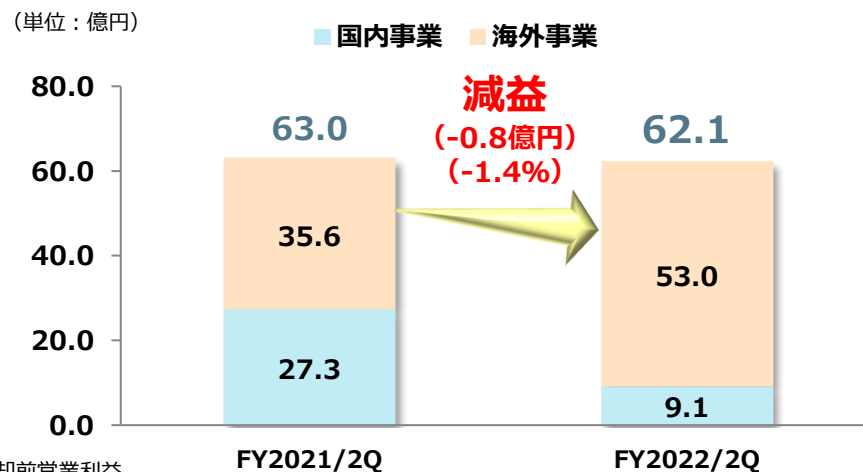


地域別内訳 (FY2022/2Q)

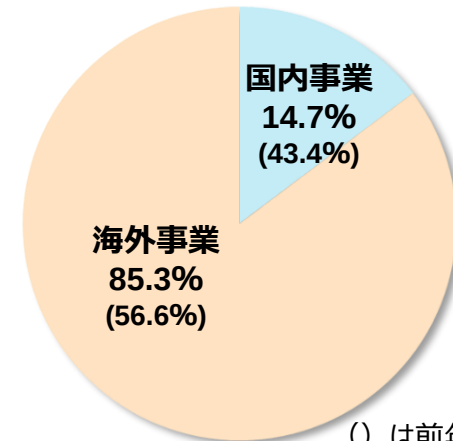


() は前年実績

海外事業は増益となったものの、国内事業の減益が響き、トータルでは僅かに減益。



セグメント別内訳 (FY2022/2Q)

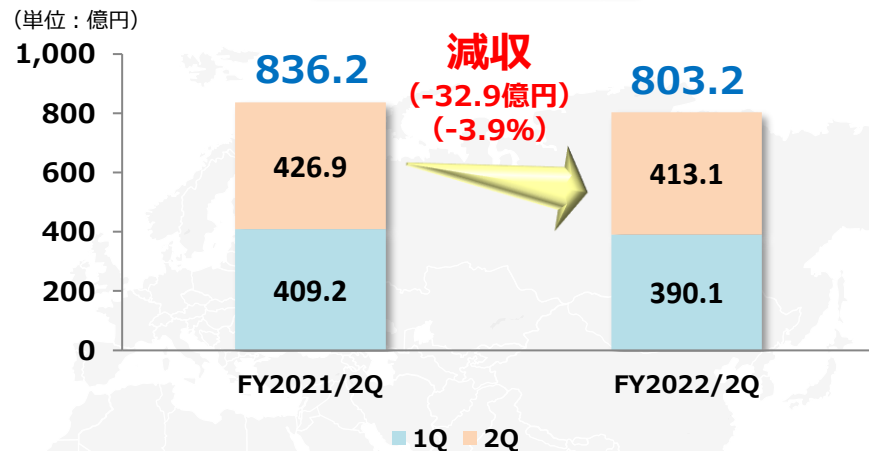


() は前年実績

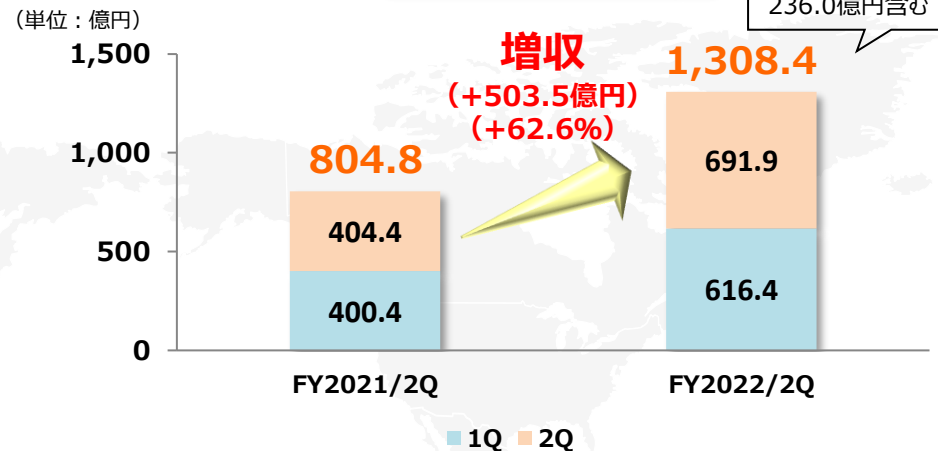
(※) のれん等償却前営業利益

4. 地域別売上高 (為替影響含む)

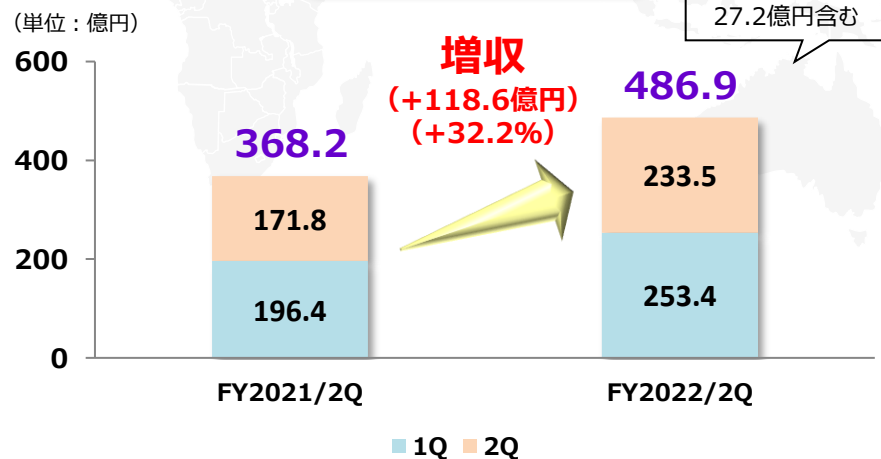
日本



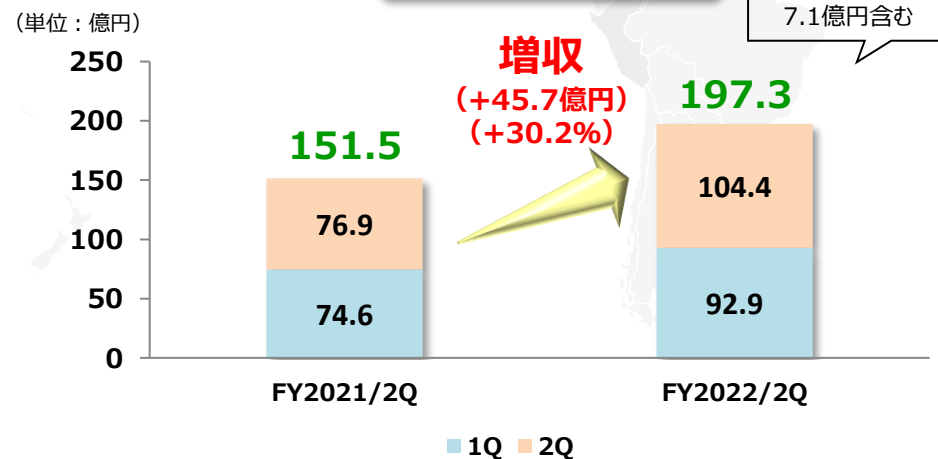
米州



欧州



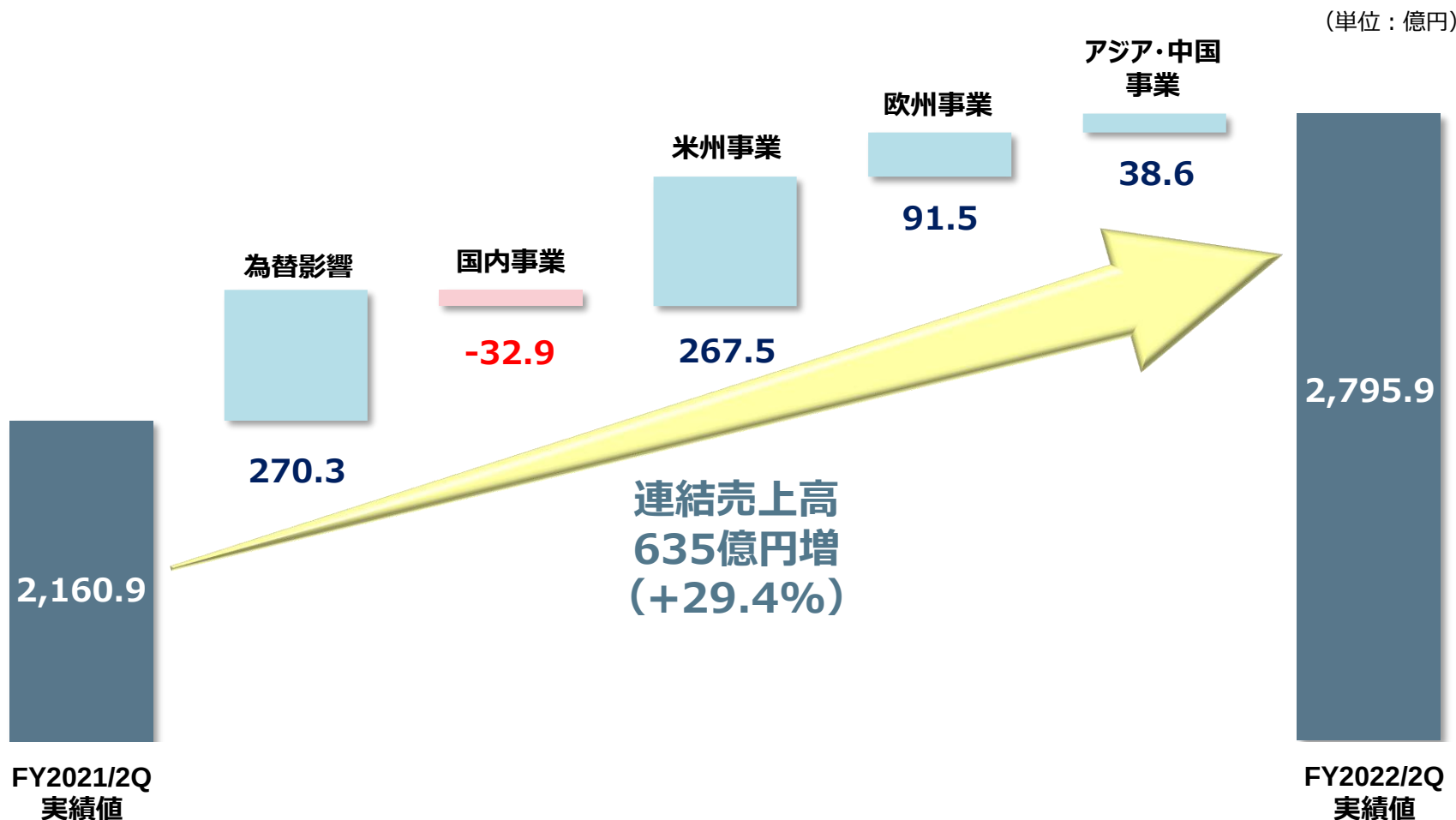
アジア・中国



5. 連結売上高増減要因（前年同期実績対比）

国内事業：部品欠品の影響が響き減収。

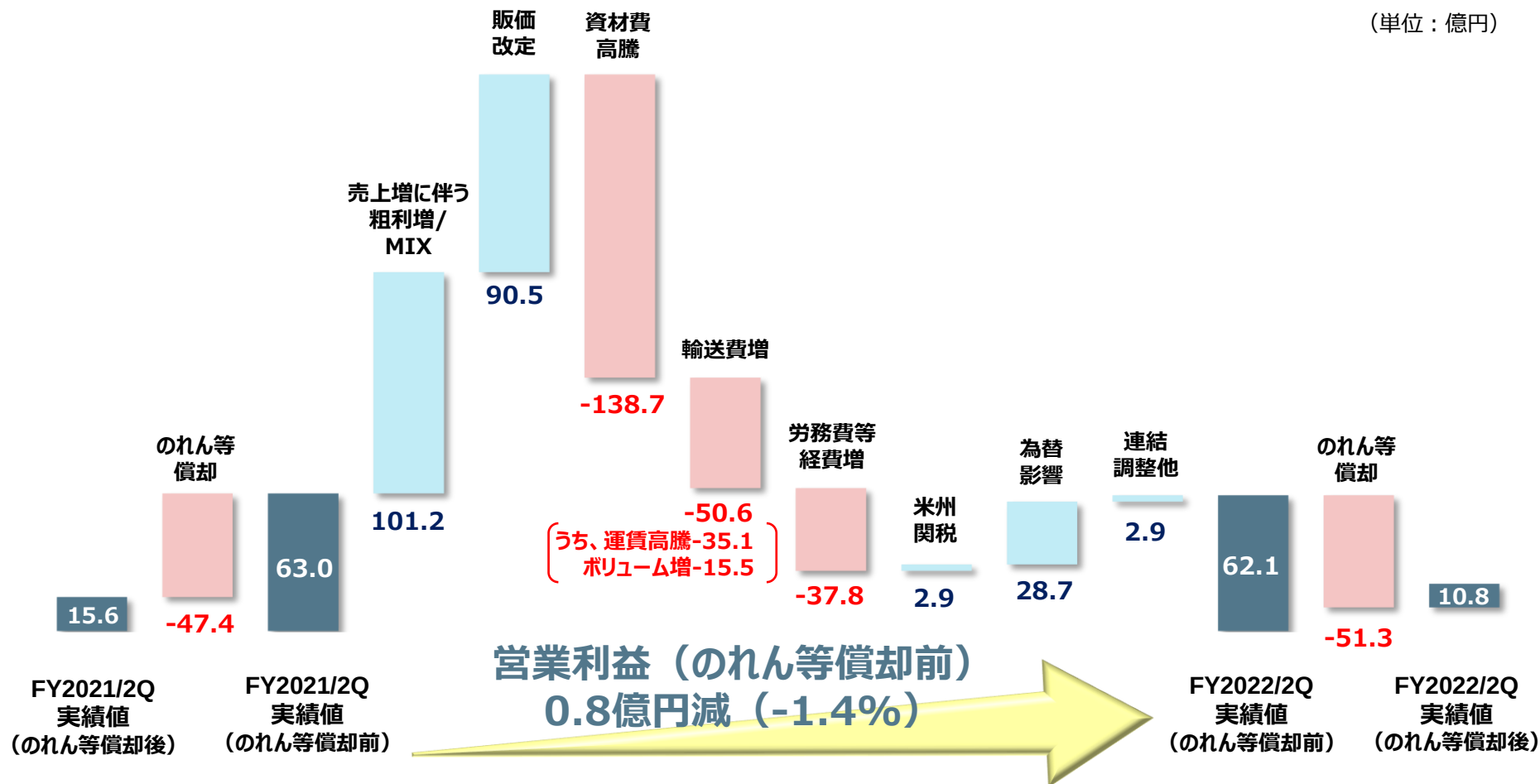
海外事業：為替の円安影響に加え、米州の販売台数増、およびEQD社(※)でのサービスやレンタル伸長が寄与。また欧州やアジアでも売上を伸ばした。



(※) EQD社：Equipment Depot, Inc.

6. 連結営業利益増減要因（前年同期実績対比）

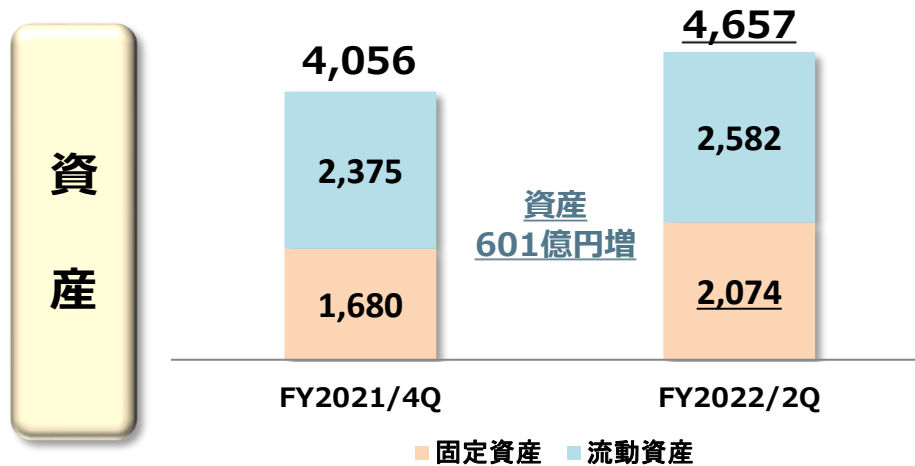
- 資材費・輸送費等の高騰影響が、販売価格改定効果を上回った。
- 想定を超える円安進行による為替影響が寄与するものの、0.8億円の減益にとどまった。



7. 連結貸借対照表

米国会計基準適用によるリース資産の増加及び為替の換算影響により総資産は増加。

(単位：億円)



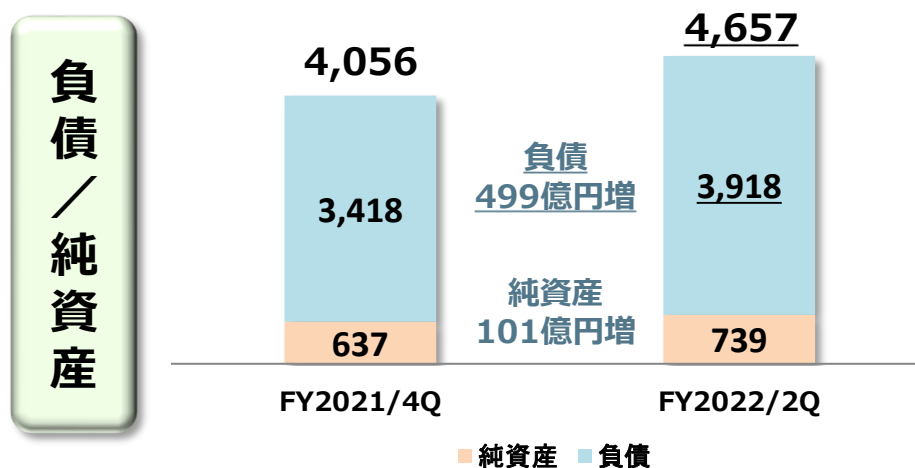
項目	FY2021/4Q	FY2022/2Q	増減
流動資産	2,375	2,582	+206
(有形固定資産)	1,022	1,399	+376
(無形固定資産)	470	485	+15
(投資その他)	187	190	+3
固定資産計	1,680	2,074	+394
資産合計	4,056	4,657	+601

流動資産：増

為替の換算影響及び棚卸資産の増加等

固定資産：増

米国会計基準適用によるリース資産の増加等



項目	FY2021/4Q	FY2022/2Q	増減
流動負債	1,807	2,014	+207
固定負債	1,611	1,903	+291
負債合計	3,418	3,918	+499
純資産計	637	739	+101
負債・純資産合計	4,056	4,657	+601

負債：増

為替の換算影響及び米国会計基準適用によるリース債務の増加

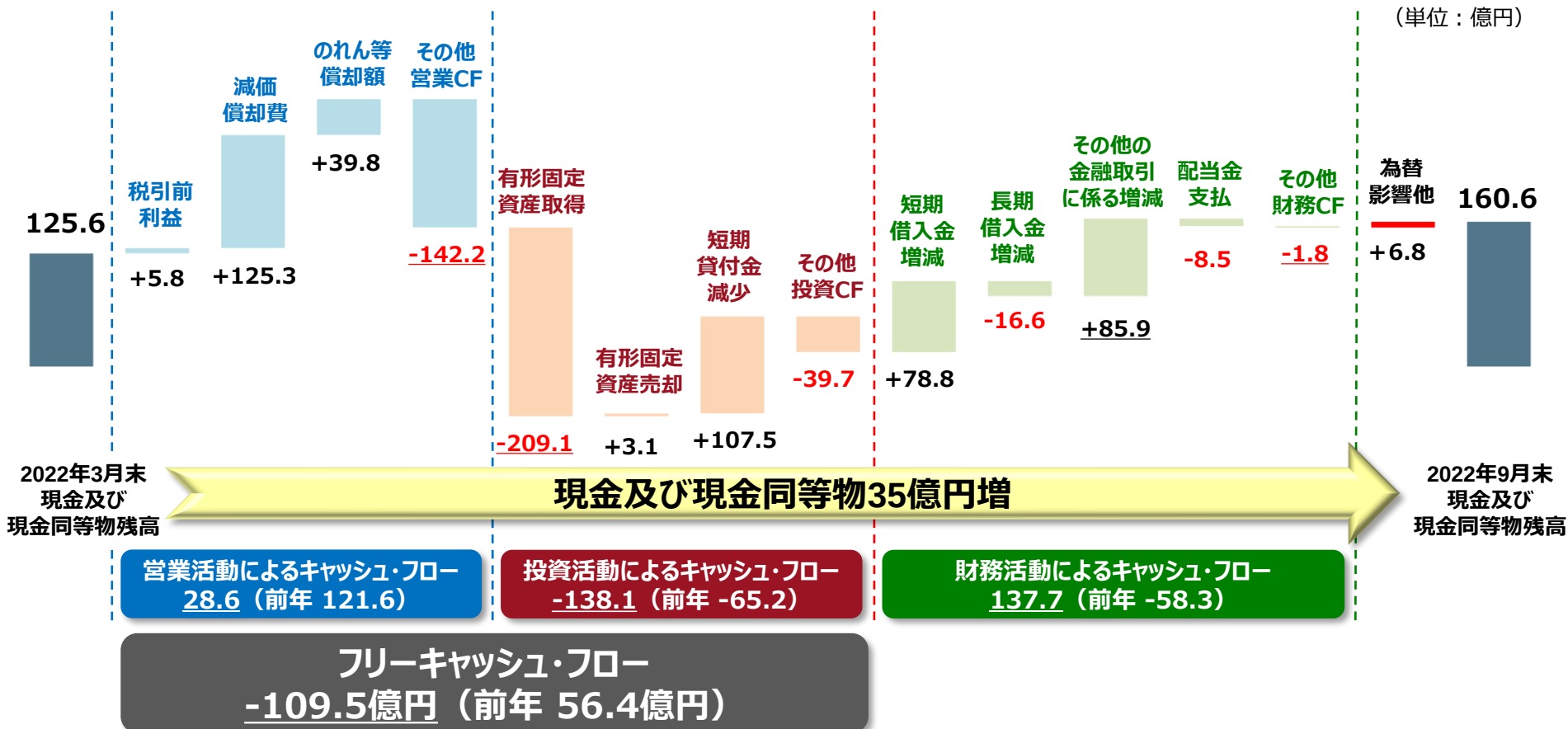
純資産：増

利益剰余金の減少、為替換算調整勘定の増加

8. キャッシュ・フローの状況

- ・ 営業C/Fは28.6億円のプラスを確保。
- ・ 投資C/Fは米国の旺盛なレンタル需要を背景としたレンタル用車両への投資拡大により-138.1億円。
- ・ フリーC/F（FCF）は、米国新リース会計基準適用により、資産売却収入を営業C/Fから財務C/Fに組替したこと等が影響し-109.5億円。
- ・ なお、米国新リース会計基準適用により、従来基準に比べ営業C/Fの収入が80.4億円減少、投資C/Fの支出が20.7億円増加したことでFCFは101.1億円減少し、財務C/Fの収入が101.1億円増加している。

(単位：億円)



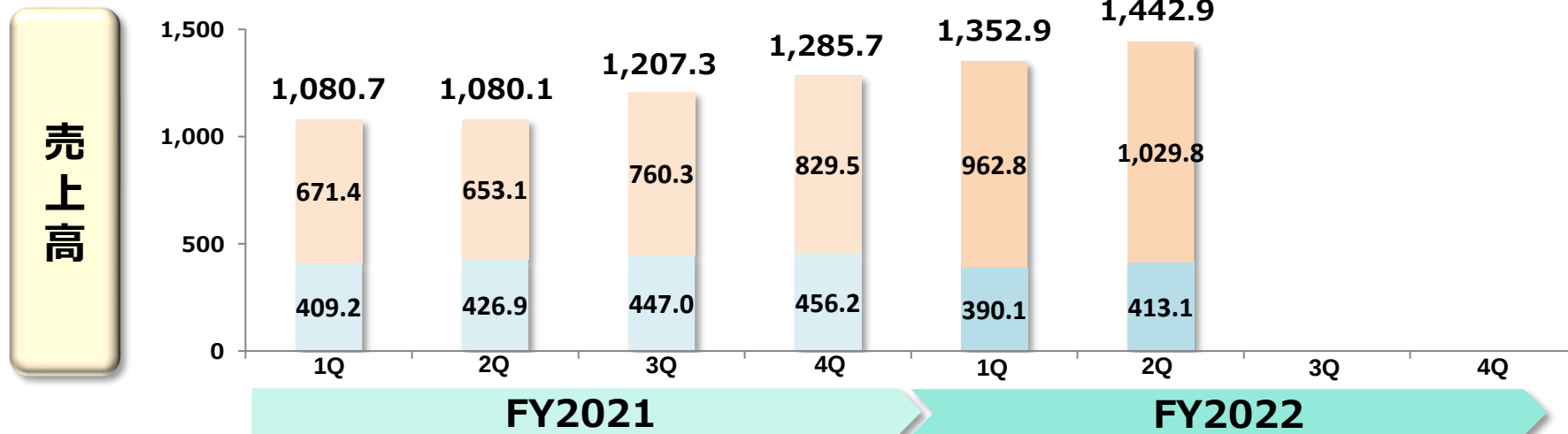
【参考資料】主な経営指標

	指標	算式	FY2021/4Q		FY2022/2Q		コメント
				(のれん償却前)		(のれん償却前)	
総合	総資本利益率（ROA）	$\frac{\text{当期純利益}}{\text{総資本}}$	0.2%	(2.2%)	-0.6%	(1.4%)	当期純損失となったことで指数悪化。また、のれん等償却前でも資材費、輸送費高騰や国内事業減収が響き指数悪化。
	自己資本利益率（ROE）	$\frac{\text{当期純利益}}{\text{自己資本}}$	1.2%	(8.6%)	-4.0%	(5.5%)	
収益性	売上高営業利益率	$\frac{\text{営業利益}}{\text{売上高}}$	0.8%	(2.8%)	0.4%	(2.2%)	
	売上高当期純利益率	$\frac{\text{当期純利益}}{\text{売上高}}$	0.2%	(2.1%)	-0.5%	(1.2%)	
効率性	総資本回転率	$\frac{\text{売上高}}{\text{総資本}}$	1.2回		1.3回		
	売上債権回転率	$\frac{\text{売上高}}{\text{売上債権}}$	6.0回		6.8回		
	棚卸資産回転率	$\frac{\text{売上原価}}{\text{棚卸資産}}$	4.6回		4.1回		
安全性	自己資本比率	$\frac{\text{自己資本}}{\text{総資本}}$	15.6%		<u>15.7%</u>		
	D/Eレシオ	$\frac{\text{有利子負債}}{\text{株主資本}}$	3.0倍		<u>3.0倍</u>		
株式関連	1株あたり利益	$\frac{\text{当期純利益}}{\text{発行済株式数}}$	6.73円	(89.52円)	-25.34円	(65.18円)	
	株価収益率（PER）	$\frac{\text{株価}}{\text{1株あたり利益}}$	138.5倍	(10.4倍)	-	(11.3倍)	株価： 2022年3月末：932円 2022年9月末：738円
	株価純資産倍率（PBR）	$\frac{\text{株価}}{\text{1株あたり純資産}}$	1.6倍		1.1倍		

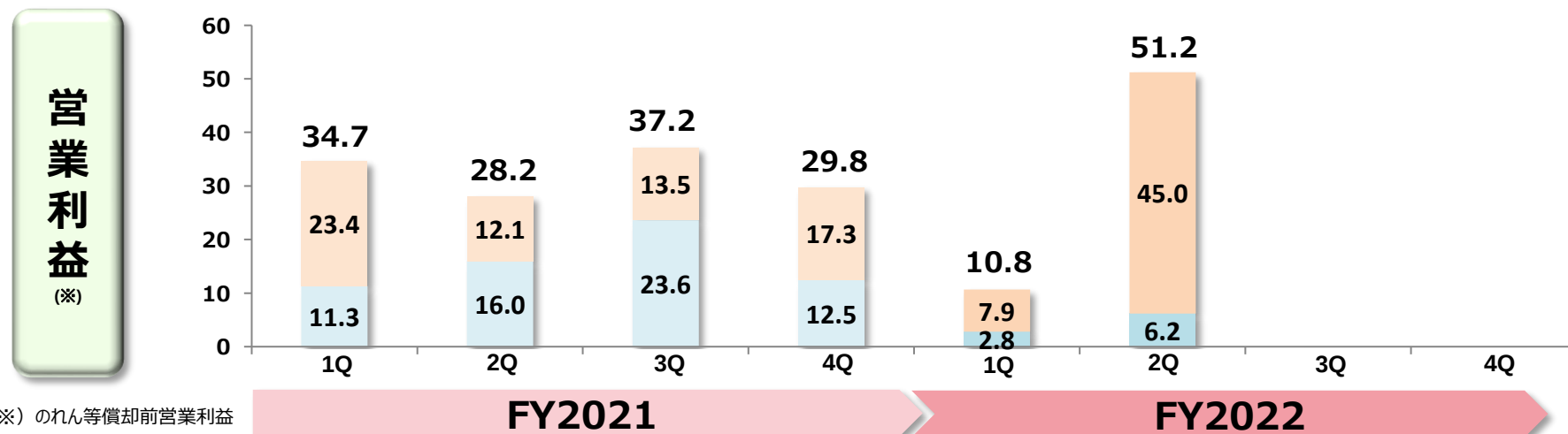
※PL項目は年換算して算出

【参考資料】四半期推移

(単位：億円)

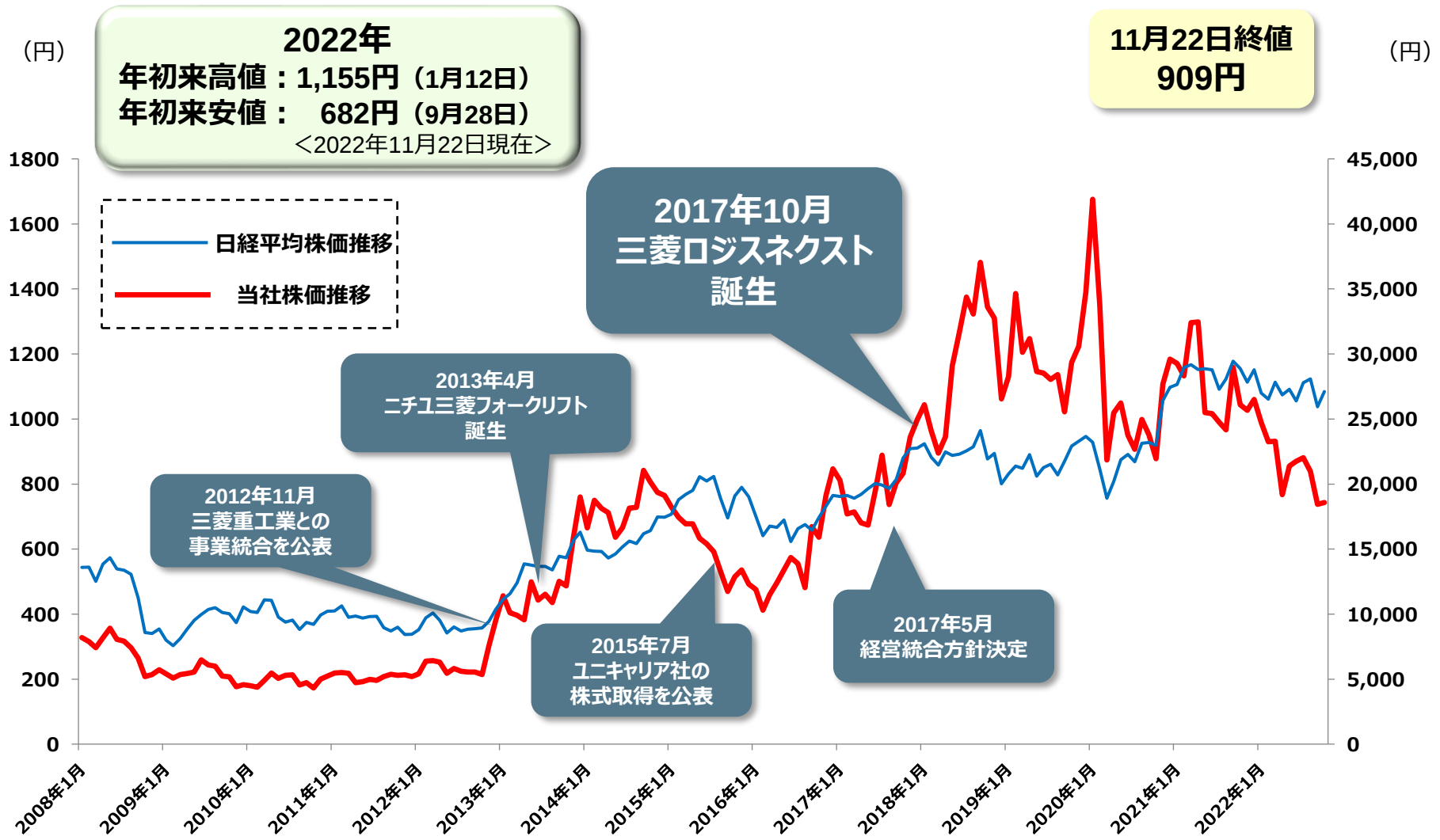


(単位：億円)



(※) のれん等償却前営業利益

【参考資料】株価の推移



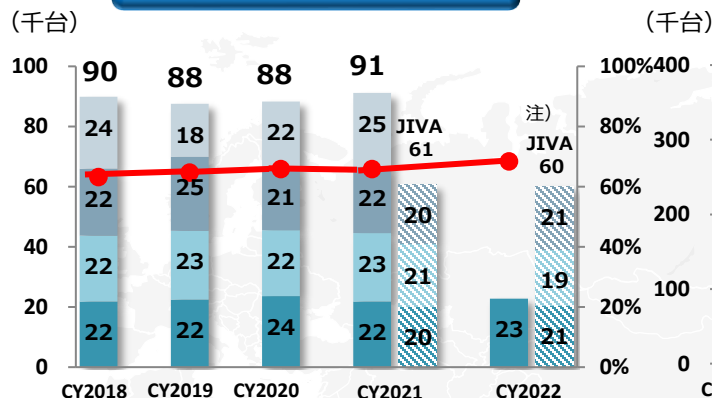
中期経営計画進捗状況

三菱ロジスネクスト株式会社
代表取締役社長 間野 裕一

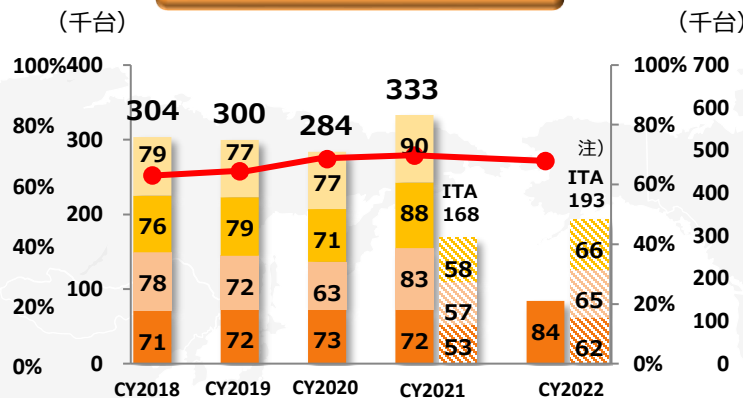
1. フォークリフト市場動向【出荷】 (1月～9月)

世界経済の不透明感が強まる中、日本(JIVA)は前年比ほぼ同水準で推移、米州(ITA)は前年を上回った。

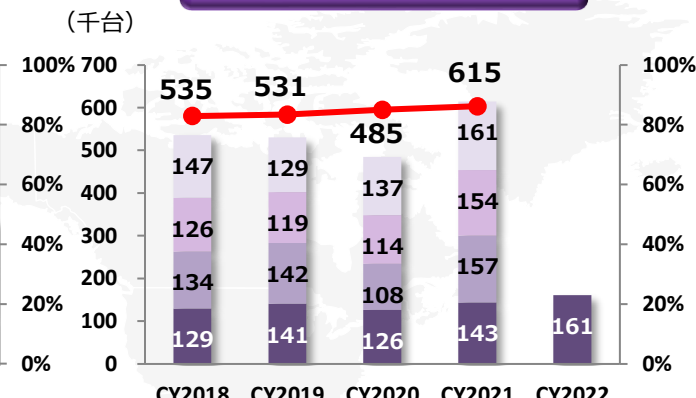
日本



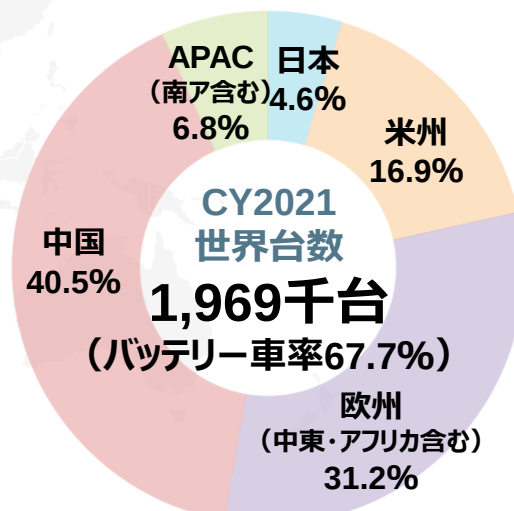
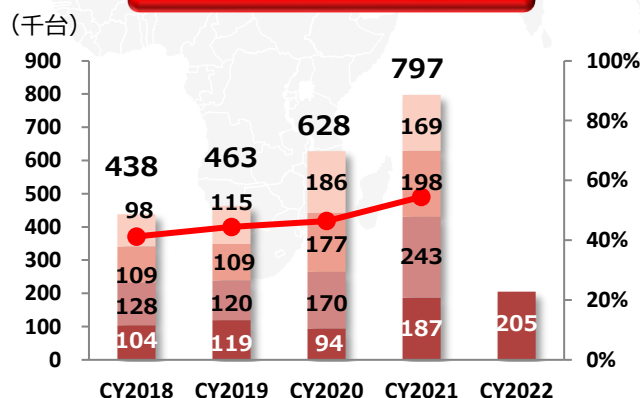
米州



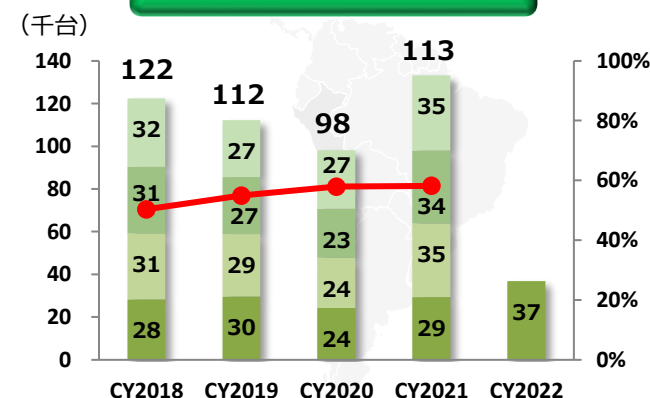
欧州 (中東・アフリカ含む)



中国



APAC (南ア含む)

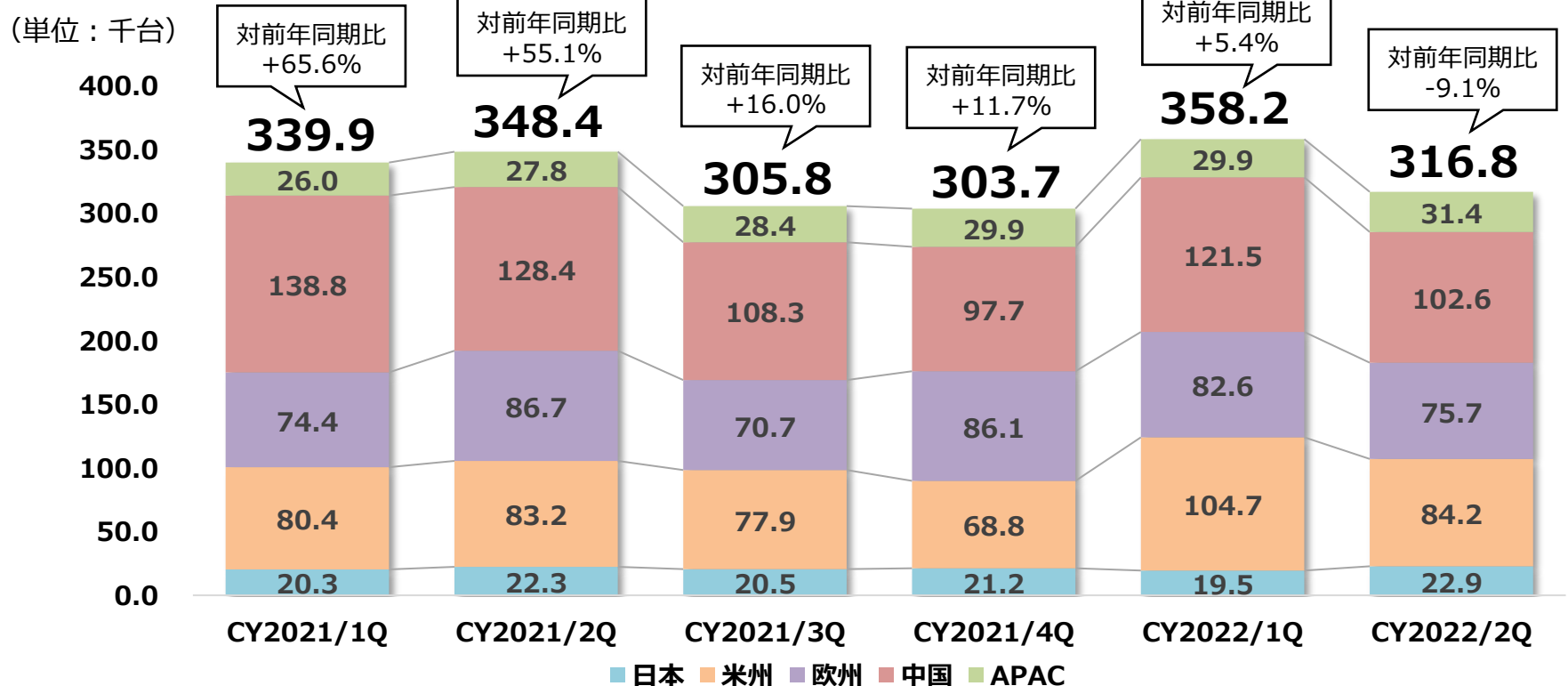


注) WITS加盟団体の統計開示方針変更のため1～12月のCYで集計
上記によるWITS統計開示遅延の為、日本はJIVA、米州はITAより集計。他地域は各国の統計データ未開示の為、CY2022/2Q以降は空白
なお、JIVAはWITSとは基準が異なり、一部の車種が含まれていない。ITAは中国・韓国メーカーの米州内販売台数が含まれていない

2. フォークリフト市場動向【受注】（四半期推移） Logisnext

- 対前年同期比、日本・米州・APACで増加、欧州・中国で減少。
- コロナ禍前よりは強い需要ではあるものの、欧米諸国の金融引き締めや中国のゼロコロナ政策、ロシアのウクライナ侵攻により、世界経済の大幅な減速懸念が高まったことで、需要は漸減。

受注台数（ClassⅢ(※)除く）



※ClassⅢ：自走式電動小型リフト

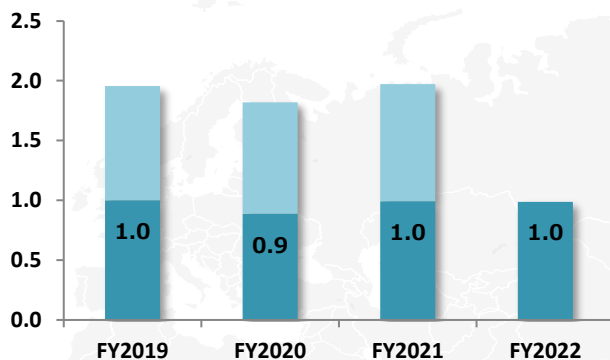
注）WITS加盟団体の統計開示方針変更のため1～12月のCYで集計

© MITSUBISHI LOGISNEXT CO.,LTD. All rights reserved.

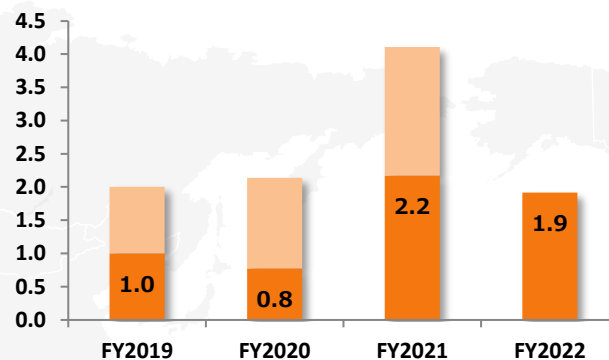
3. 当社受注台数（4月～9月）

米州・欧州でのコロナ禍の反動増による受注増が落ち着き、受注台数は前年同期比-16%。

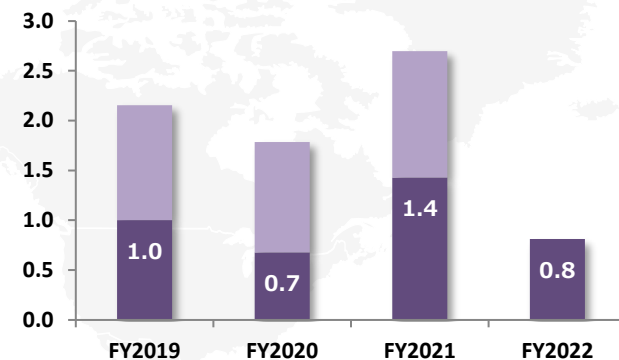
日本



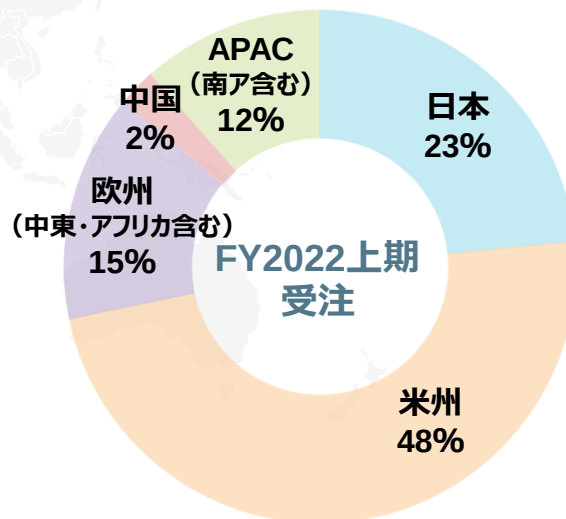
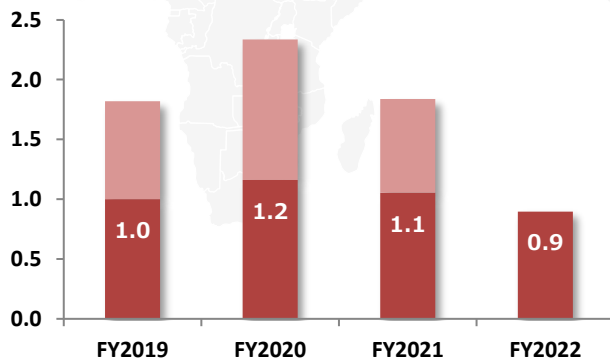
米州



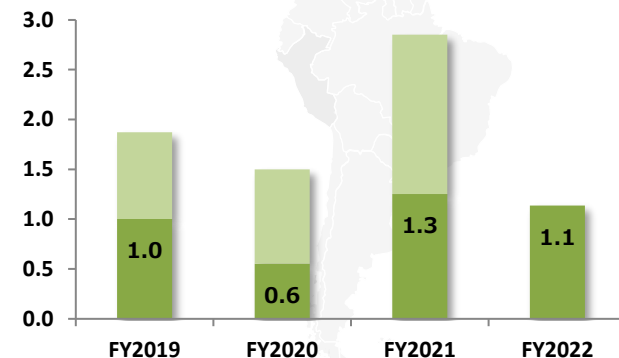
欧州 (中東・アフリカ含む)



中国



APAC (南ア含む)



注) FY2019/1H=1として指数化。小数点以下の差により、同じ数値表記であっても見かけ上グラフの高さに違いが生じることがある

4. 2023年3月期通期業績見通し

- 売上高の増加や販売価格改定の効果、円安水準で推移している為替影響を踏まえ、業績予想を上方修正。
- のれん等償却前営業利益は期初予想を+22.9%上回る見通し。

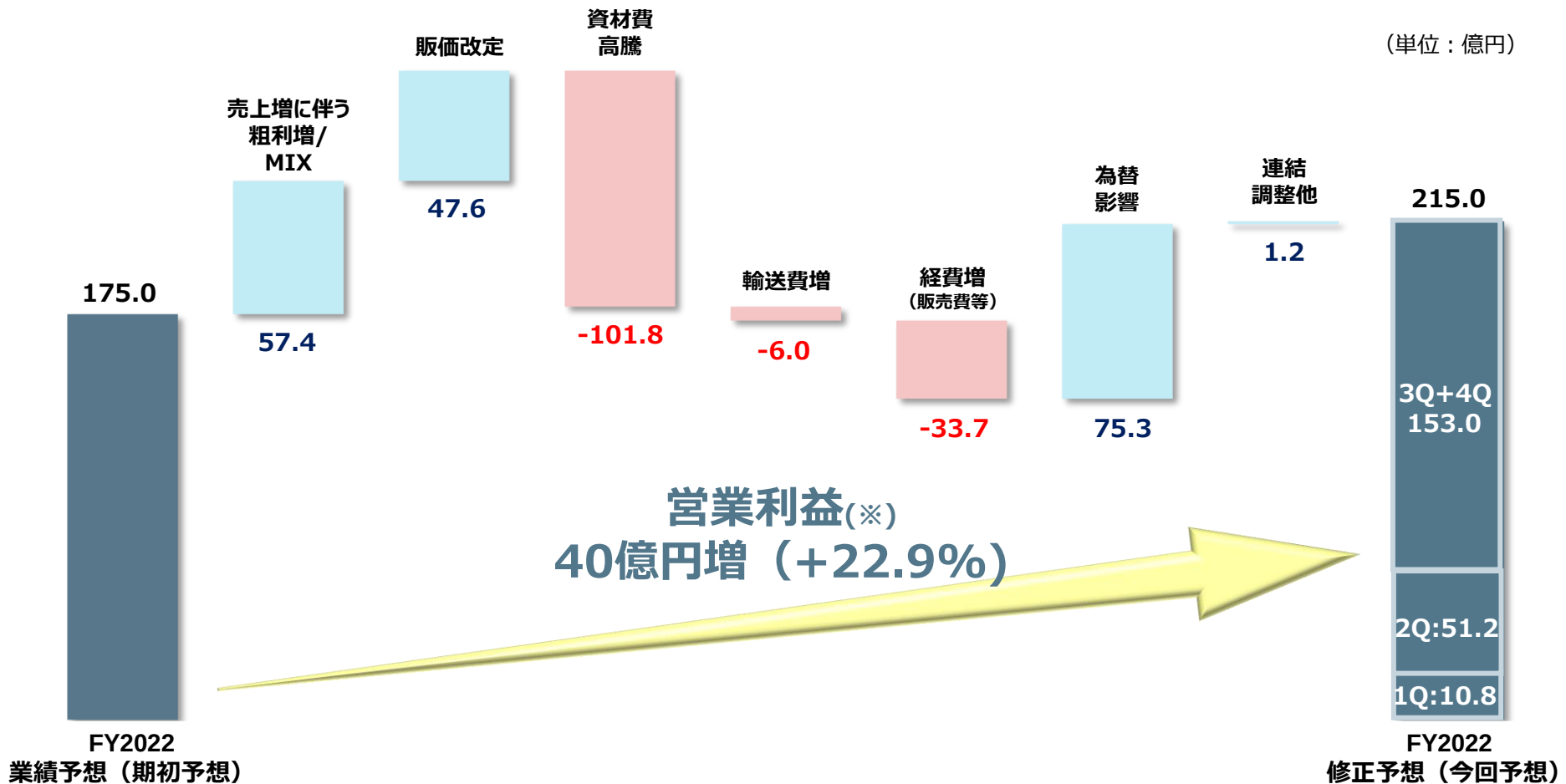
(単位：億円)	FY2022業績予想 (2022年5月公表)	FY2022修正予想 (2022年11月公表)	期初予想比増減	
販売台数	118千台	118千台	－	－
売上高	5,400.0	6,100.0	+700.0	+13.0%
営業利益（のれん等償却前） （営業利益率）	175.0 (3.2%)	215.0 (3.5%)	+40.0	+22.9%
のれん等償却	95.0	100.0	－	－
営業利益 （営業利益率）	80.0 (1.5%)	115.0 (1.9%)	+35.0	+43.8%
経常利益 （経常利益率）	70.0 (1.3%)	100.0 (1.6%)	+30.0	+42.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益 （当期純利益率）	25.0 (0.5%)	35.0 (0.6%)	+10.0	+40.0%
1株あたり配当	9円	9円	－	－

FY2022期初計画レート：USD=120円 EUR=130円 CNY=18.5円

FY2022下期計画レート：USD=140円 EUR=140円 CNY=20円

5. 通期見通し 営業利益^(※)増減要因

- 半導体等の電子部品供給不足は最悪期を脱し、3Q以降は更なる生産・出荷の挽回、販売価格改定や為替影響の寄与を見込む。
- 輸送費高騰はピークを打ったものの、資材費は国内や欧州で未だ価格上昇が続くと想定。
- 地政学的リスクの増大、各国でのインフレ進行による景気への悪影響が懸念事項。



(※) のれん等償却前営業利益

6. 中期経営計画 進捗状況

中期経営計画「Logisnext SolutionS 2023」(呼称、『LS23』)

企業耐力の強化

成長戦略の推進

ブランド力向上

2021年度
始動・基盤構築フェーズ

売上高 4,654億円
営業利益(※) 130億円

2022年度
成長・拡大フェーズ

期初予想 修正予想
売上高 5,400億円 → 6,100億円
営業利益(※) 175億円 → 215億円

2023年度
完遂・進化フェーズ

LS23計画値
売上高 5,000億円 → 前倒し達成
営業利益(※) 300億円

米国 直販体制強化

- ・ 米国市場動向
- ・ EQD社成長への取り組み
- ・ EQD社業績拡大

自動化需要に向けた 取り組み

日本 : ΣSynXによる
物流ソリューション
欧州 : AGVデモセンター開設
APAC : xSquare社との協業

その他取り組み

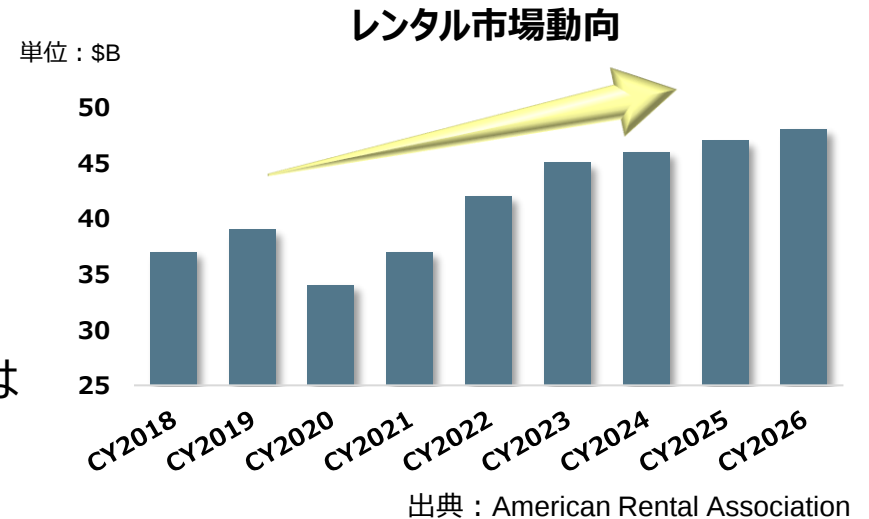
- ・ 安全技術
- ・ ESG経営
- ・ 統合レポート発行

(※) のれん等償却前営業利益

■ 米国市場動向

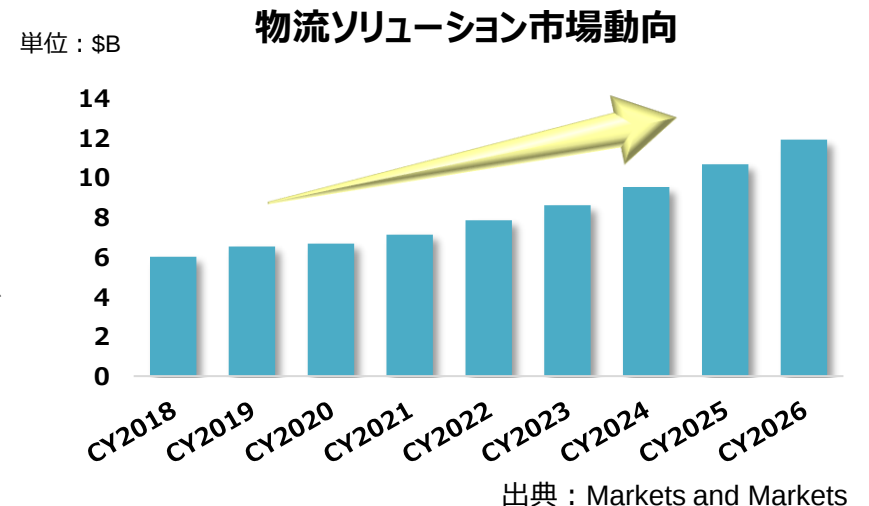
➤ レンタル市場

- CY2022・・・約420億ドル(予想)
コロナ禍前を上回り過去最高の見込み。
- 2021年に成立した約1兆ドルのインフラ投資法案等を追い風に民間投資も増え、需要が増加。CY2023以降も市場規模は拡大傾向。



➤ 物流ソリューション市場

- CY2022・・・約 80億ドル(予想)
CY2026・・・約120億ドル(予想)
e-Commerce の伸長や労働力不足を背景に物流の自動化需要が高まっており、年々成長が予測される。



8. 米国 直販体制強化②

■EQD社成長への取り組み

企業買収

2022年6月1日、米国の物流機器販売会社 Norlift社を買収。
米北西部（オレゴン州およびワシントン州）向けの
販売体制強化を目指す。



NORLIFT
OF OREGON, INC.



レンタル事業 投資

レンタル車両不足回避のため、増車及び入替車両の発注を実施。
レンタル稼働状況は高稼働を維持。収益も2021年以降、好調に推移。



建設機械



高所作業車



フォークリフト

物流ソリューション 事業拡販

ソリューション事業部門「EQ Solutions」は、
人員増強、MLFI社(※)製品の活用による製品
拡充などに注力。
順調に受注獲得中。

(※) MLFI社 : Mitsubishi Logisnext Europe Oy (Finland)

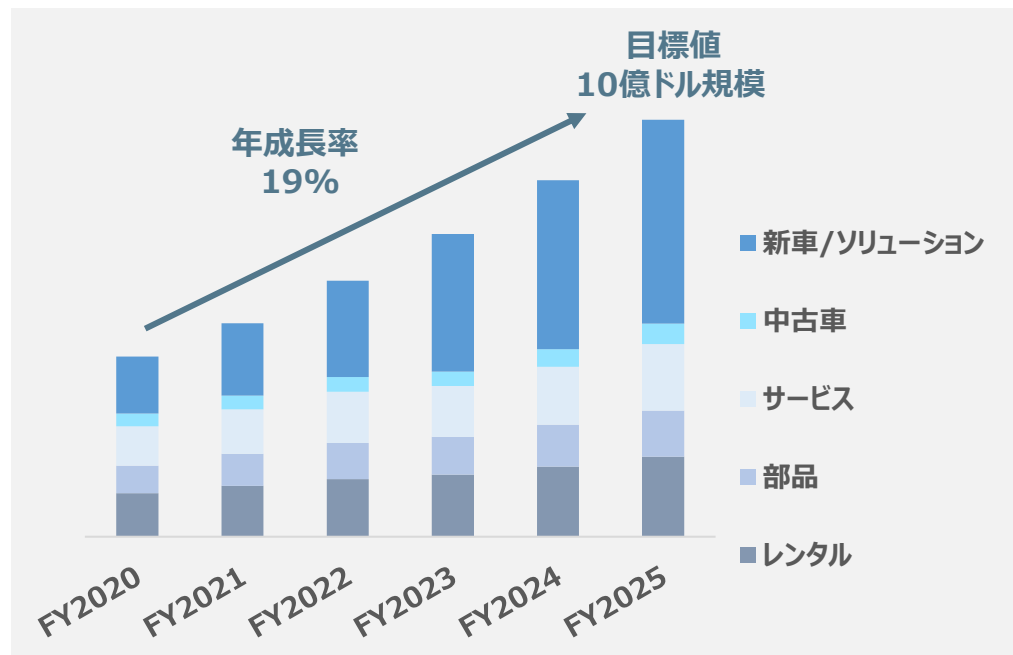


EQSOLUTIONS

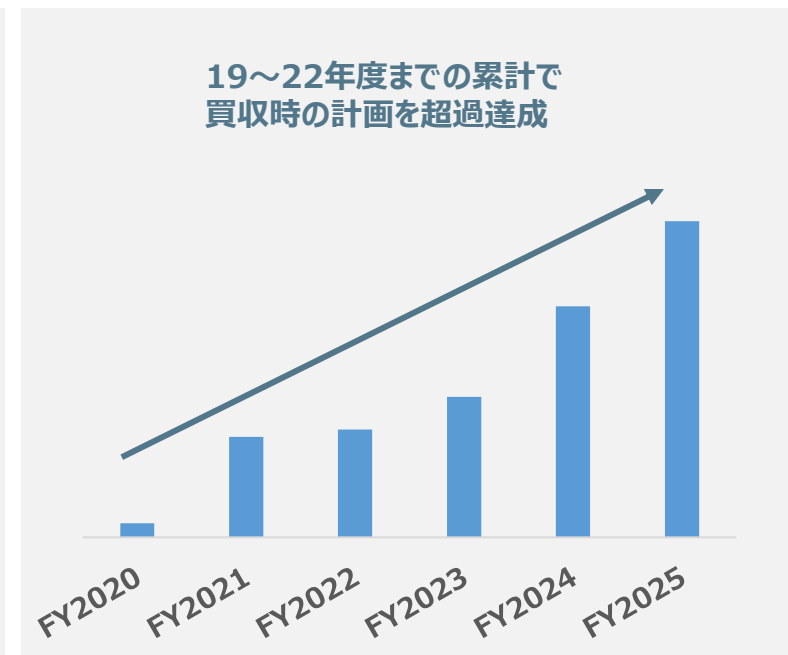
■EQD社業績拡大

- コロナ禍による影響はあったものの、好調な受注や、レンタル、ソリューション事業強化等を背景に増収増益の見込み。
企業買収により、EQD社の米国におけるカバレッジは、2019年から10%増の約35%に拡大。
- 今後は既存の新車、サービス、レンタル等のコア事業の強化・マーケットシェア拡大に加え、EQ Solutions等の成長領域に注力。

売上高推移



EBITA推移



10. 自動化需要に向けた取り組み①

日本：ΣSynX (※) による自動ピッキングソリューションを提供開始

- AGV、AGF、パレタイザーを効率的に連携させた自動ピッキングソリューションを三菱重工業と共同開発。2022年9月1日から倉庫物流のお客様向けに提供を開始。



三菱重工業が運営する「Yokohama Hardtech Hub」で実証施設「LogiQ X Lab」を稼働し、お客様を対象とした見学をスタート。

ΣSynX技術で物流の知能化・自動化を実現、物流オペレーター不足の解決に貢献

(※) 三菱重工業が掲げる、物流機器の自律化・知能化ソリューションコンセプト「ΣSynX (シグマシンクス)」。

© MITSUBISHI LOGISNEXT CO.,LTD. All rights reserved.

1 1. 自動化需要に向けた取り組み②

欧州：AGVデモセンターを開設

- 物流ソリューション事業への更なる貢献を目指し、フィンランドにAGVデモセンターを開設。
実際の倉庫環境を再現した具体的なデモンストレーションがお客様より好評。



MLFI社デモセンター

APAC：xSquare社との協業

- MLAP社(※)は、2022年9月にxSquare社(x2社)とAGV開発・販売に関する協業契約を締結。
- APAC市場の物流ソリューション需要拡大に対応するため、シンプル・低価格なAGVをx2社と共同で開発中。



xSquare社とMLAP社の契約締結



(※) MLAP社：Mitsubishi Logisnext Asia Pacific Pte. Ltd.

1 2. その他取り組み – 安全技術

■ 人とフォークリフトが共存できる安全システムの販売

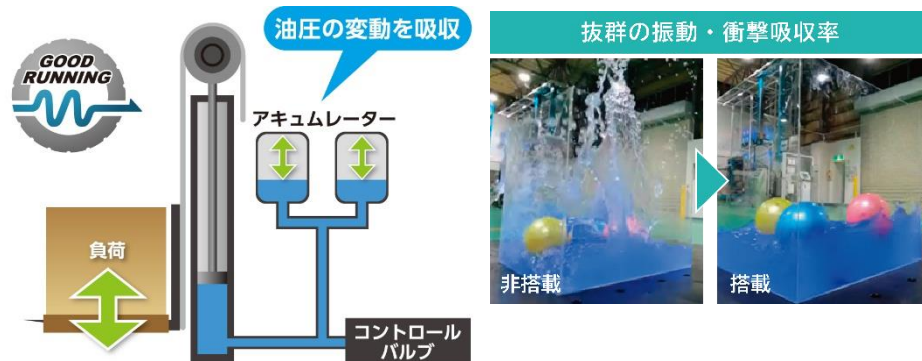
➤ AI人検知警報システム「OmniEye®（オムニアイ）」

- 車両周辺の安全確認をサポートするレグラス社製装置。
マストとヘッドガードに取り付けた半球カメラで様々な姿勢の「人」をAIで検知、積層灯が警告して衝突事故を防止する。



➤ 走行振動・衝撃吸収装置「グッドランニングシステム」

- 車両に内蔵した2つのアキュムレーターで走行時の車体振動と衝撃を吸収、積荷の破損・騒音・オペレーターの疲労を軽減する。



■カーボンニュートラルの実現に向けて

➤ 燃料電池フォークリフトの運用実証実験に参加

- 日本建設工業株式会社様内で行われている燃料電池フォークリフトを使った稼働実験に共同参加。
- 燃料電池フォークリフトは、燃料の燃焼が無くCO₂を排出しないため、地球にやさしいカーボンニュートラルに対応した荷役作業が可能。



燃料電池フォークリフト（実証実験中）



水素ステーションで燃料電池に水素を充填。
水素充填は約3分で完了。バッテリーフォークリフトのような長時間の充電が不要。

14. その他取り組み - 統合レポート発行

■「三菱ロジスネクスト 統合レポート 2022」

https://www.logisnext.com/investor/library/integrated_report.pdf

- 2020 年度から発行を開始した「SDGs レポート」を拡充し、統合レポートとして発行。
SDGs や ESG 経営の現状と見通しに加え、物流業界が抱える課題の解決や脱炭素化への取り組みを掲載。
- 社長メッセージ、CFO並びにCTOメッセージのほか、社外取締役からのメッセージを新たに掲載。



注意事項

- 本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料における将来予測に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。
- 将来における弊社の業績が、現在の弊社の将来予測と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
- 業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成しておりますが、弊社はその正確性、安全性を保証するものではありません。
- 本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、弊社はいかなる場合においてもその責任は負いません。

本資料に関するお問い合わせ

三菱ロジスネクスト株式会社 財務企画部企画課 荻屋・光行

〒617-8585 京都府長岡京市東神足2-1-1

TEL : 075-956-8610 FAX : 075-951-4038

URL : www.logisnext.com

Logisnext

三菱ロジスネクスト